

女性・少女漫画を素材とする異文化理解教育の方法 開発

因, 京子
九州大学留学生センター助教授

日下, みどり
九州大学比較社会文化研究院教授

松村, 瑞子
九州大学言語文化研究院教授

<https://hdl.handle.net/2324/16803>

出版情報：日下翠教授中国文学・漫画学著作集成，2002-03
バージョン：
権利関係：

はしがき

日本マンガが外国に類をみない発達を遂げ、「子供向けの娯楽作品」という枠を大きく越えて芸術作品として論ずるに足る作品を生み出すに至っているということは、改めて指摘するまでもない。中でも、「24年組」と総称される一群の女性作家たちの作品を中心とする女性・少女マンガは、マンガ表現の幅を大きく広げたのみならず、小説や戯曲など伝統的な表現分野が焦点を当ててこなかった様々な主題を取り上げ、他の分野にも大きな影響を与えた。近年は、外国人の中にも日本マンガに高い関心を示す人々が増加している。

マンガは日本の現代社会の様々な現象やその裏にある文化的前提と価値観を反映しており、また、生き生きとした現代日本語の宝庫でもある。そのため、外国人が日本語や日本社会を学ぶために役立つだけでなく、日本人が自分の社会や文化を意識的に理解し、それをどう表現すればよいかを考えるきっかけとしても、非常に有効に利用し得る可能性を持っている。しかし、映画など他の大衆文化作品と比べても未だ社会的認知度が低く、作品研究や教育への応用方法の研究も行なわれていないのが現状である。

本研究は、マンガ作品を素材として、日本の大学において外国人留学生に対する日本語・日本文化のコースはもとより、留学生と日本人学生が共に学ぶ異文化理解コースでも使える教材を開発することを具体的目的として、作品研究・言語研究・教材開発を行なったものである。

本報告の第一部には、今回の研究に参加した研究者三名が、それぞれの専門分野を背景に、文学研究、日本語教育、言語学の立場から行なったマンガ研究の成果を収録した。第二部と第三部には、第一部の成果を踏まえて開発した教材を収録した。第二部は、「一週間一度、一学期15週」という日本の大学における一般的コース形態で行なわれる「異文化理解コース」での使用を前提として、シラバス例・素材・タスクを提案したものである。主に言語に焦点あてながら、外国人留学生と日本人学生のそれぞれが自文化と異文化への理解と考察を深めるよう導くことを目指している。日本語上級コースの教材としても利用できる。第三部は、日本マンガを更に読み進み、マンガについての研究を行いたいと考える人々への手がかりを提供するために、代表的なマンガ作家数名とその作品、マンガに関する研究書を解説したものである。文学研究や映画研究などと違ってマンガ研究はまだ緒に就いたばかりであり、作品そのものは巷間に溢れているが、研究のための資料も情報も非常に限られている。第三部は、こうした状況を改善するための努力の始めである。

マンガは、今後ますます芸術作品として享受され、研究対象として分析されるようになっていくと思われるが、教育への応用という点でも、非常に大きな可能性を秘めている。文化的背景を異にする者同士がお互いの解釈や判断を比較し、その背景にある価値観に対する理解を深めるための具体的な方法を提示した本研究が、今後のマンガ研究、マンガ利用の研究の発展に少しでも資することができれば幸いである。

2002年3月

研究代表者
因 京子